【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成30年10月4日(2018.10.4)

【公開番号】特開2017-27115(P2017-27115A)
【公開日】平成29年2月2日(2017.2.2)
【年通号数】公開・登録公報2017-005
【出願番号】特願2015-141718(P2015-141718)
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｆ　3/0346　(2013.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｆ　3/033　４２２

【手続補正書】
【提出日】平成30年7月17日(2018.7.17)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
手指を撮像した時系列画像の各画像における手指の特徴点を対象として、相対的に固定な２個以上の特徴点である固定特徴点群および同固定特徴点群に対して相対的に変位する１個の特徴点である変位特徴点があって、
同固定特徴点群を用いてポインティング位置を算出し、
同固定特徴点群に対して相対的に位置姿勢が定まるローカル座標系における同変位特徴点の座標値の時系列において、
第１のモードであるときに、同座標値が第１の閾値より小さいときに、第２のモードに遷移し、第２のモードであるときに、同座標値が第１の閾値より大きい第２の閾値より大きいときに、第１のモードに遷移する、
もしくは、第１のモードであるときに、同座標値の差分が第１の閾値より小さいときに、第２のモードに遷移し、第２のモードであるときに、同座標値の差分が第２の閾値より大きいときに、第１のモードに遷移する、
ことを特徴とする、ジェスチャによるポインティング方法。
【請求項２】
請求項１に記載のローカル座標系が、同固定特徴点群の各点との距離の所定の重み付き２乗和が最小となる直線と同じ方向、同固定特徴点群のうちの所定の２点からの同直線への垂線の２個の足から定まる向き、および同固定特徴点群の各点の所定の重み付き平均である位置から定まる、
ことを特徴とする、ジェスチャによるポインティング方法。
【請求項３】
請求項１に記載のローカル座標系が、各画像において求められた固定特徴点群に対して、固定特徴点群に対応する固定テンプレート点群と変位特徴点に対応する変位テンプレート点とから構成されるテンプレートを、同固定テンプレート点と同固定特徴点との距離の所定の重み付き２乗和が最小となるように配置したときの同固定テンプレート点群の位置を基に、請求項２に記載の方法で定まる、
ことを特徴とする、ジェスチャによるポインティング方法。
【請求項４】
請求項１乃至３の何れか１項に記載の方法を実行するコンピュータ。

【請求項５】
請求項１乃至３の何れか１項に記載の方法をコンピュータに実行させることを特徴とするプログラム。
【請求項６】
請求項５に記載のプログラムを記憶していることを特徴とする記録媒体。